

林、森、虹、息・・・

~声と弦による贈り物~

Forest, Woods, Rainbow & Breath... ~Special Gifts by Voice and Strings~

~NymphéArt (ニンフエール) features

Akie AMOU, Tatsunobu GOTO, & Daisuke SUZUKI ~

with composers, Miyuki ITO & Kumiko OMURA

天羽明恵 (ソプラノ)

後藤龍伸 (ヴァイオリン)

鈴木大介 (ギター)

伊藤美由紀 (企画/作曲、司会、ピアノ)

大村久美子 (企画/作曲)



2006年名古屋市港文化小劇場芸術公演
2006年5月13日(土) 14:00開演/13:30開場
名古屋市港文化小劇場

Nagoya City Minato Playhouse, Saturday, May 13, 2006, 2:00pm

サントリー音楽財団推薦コンサート

助成:(財)朝日新聞文化財団

～ ごあいさつ ～
GREETING

本日はお忙しい中、昨年につき第2回目となる *NymphéArt*（ニンフェアール）プロデュース公演「林、森、虹、息・・・声と弦による贈り物」にご来場頂き、有り難うございます。

今回の演奏会は、ヨーロッパの数々のオペラハウスや、日本の代表的なオーケストラとの共演などで活躍する天羽明恵(ソプラノ)、作曲家の故・武満徹氏に絶賛され、武満徹ギター作品全曲録音をする他、サイトウ・キネン・フェスティバル松本にも度々招かれている鈴木大介(ギター)、日本の各地のコンサートマスター歴任後、現在、名古屋フィルハーモニーのコンサートマスターとして活躍する後藤龍伸(ヴァイオリン)との共同自主企画として開催されます。それぞれの演奏家が、日常での活動の枠を超えて、自主企画ならではの自由で創造的な内容を盛り込んだプログラムで構成されています。

公演名である「林、森、虹、息」は、演奏される曲名からとられており、ソプラノ、ヴァイオリン、ギターという異なる楽器(声)から生み出される多彩な音空間をお楽しみいただければ幸いに存じます。

最後に、この企画を名古屋で開催する事ができますのも、朝日新聞文化財団の公演助成、(財)名古屋市文化振興事業団と、その他関係者皆様の御協力によるもので、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2006年5月13日 ニンフェアール

伊藤美由紀 / 大村久美子

ニンフェとは、フランス語で睡蓮(すいれん)の意味で、ギリシア神話の乙女ニンフともかけてあり、またこのニンフという単語はさなぎという意味もあります。アールはフランス語で、アートを意味し、私達はこの団体名のもとに、美しく新鮮で、これからの可能性を秘めた芸術作品を皆様にご紹介したいと願っております。 nymphheart@yahoo.co.jp



1. 伊藤美由紀：「星の林に。。。Ⅱ (2005)」(日本初演)(ソプラノソロ)
Miyuki ITO: “Into the Forest of Stars...II (2005)” for soprano
 2. 武満徹：「森のなかで (1995)」(ギターソロ)
Toru TAKEMITSU: “In the Woods-Three pieces (1995)” for guitar
(1) ウェインスコット・ポンド～コーネリア・フォスの絵画から(Wainscot Pond-after a painting by Cornelia Foss)
(2) ローズデール (Rosedale)
(3) ミュアー・ウッズ (Muir Woods)
 3. ストラヴィンスキー：「3つの日本の抒情詩 (1913)」(ソプラノ、ピアノ版)
Igor STRAVINSKY: “3 Japanese Lyrics (1913)” for soprano and piano
(1) 山部赤人 (Akahito)
(2) 源当純 (Mazatsumi)
(3) 紀貫之 (Tsaraiuki)
 4. 猿谷紀郎：「虹のあしおと (1999)」(ヴァイオリン、ギター版)
Toshiro SARUYA: “Niji no Ashioto (1999)” for violin and guitar
 5. 大村久美子：「浄められた息 (2003/06)」(ソプラノ、ヴァイオリン、ギター版)
Kumiko OMURA: “Blessed Breath (2003/06)” for soprano, violin and guitar
- ～ 休憩 ～
6. ネイト・ペーゲル(映像)/ 伊藤美由紀(エレクトロニクス)：「東京メトロ」(2005-06)
Nate PAGEL(video)/ Miyuki ITO(music): “Tokyo Metro (2005-06)” for video and electronics(日本初演)
 7. 大村久美子：「雑踏の中で (2006)」(世界初演)(ギターソロ)
Kumiko OMURA: “In the Congestion (2006)” for guitar (WP)
 8. 武満徹：歌曲より (ソプラノ、ギター)
Toru TAKEMITSU: for soprano and guitar (poem by Shuntaro TANIKAWA)
(1) うたうだけ(1958) (詩：谷川俊太郎) (I just sing)
(2) 恋のかくれんぼ (1961) (詩：谷川俊太郎) (The Game of Love)
 9. 後藤龍伸：「レクイエム -モノローグ (2006)」(世界初演)(ヴァイオリンソロ)
Tatsunobu GOTO: “Requiem -Monologue (2006)” for violin (WP)
 10. 伊藤美由紀：「暗闇の中の眼のキラメキ (2006)」(世界初演)(ソプラノ、ヴァイオリン、ギター)
Miyuki ITO: “La lumière de tes yeux dans la pénombre (2006)” for soprano, violin and guitar (WP)

天羽明恵 (ソプラノ) / Akie AMOU (soprano)
後藤龍伸 (ヴァイオリン) / Tatsunobu GOTO (violin)
鈴木大介 (ギター) / Daisuke SUZUKI (guitar)

伊藤美由紀 (企画、作曲、ピアノ、司会) / Miyuki ITO (composer, coordinator, piano, & interpreter)
大村久美子 (企画、作曲) / Kumiko OMURA (composer, & coordinator)

1. 伊藤美由紀:「星の林に。。。II (2005)」(ソプラノソロ)

2005年ドイツ・シュトゥットガルトでの現代音楽コンサートの為に、天羽明恵さんから依頼を受け、書かれた作品である。彼女の為に書かれた2曲目の作品である。この作品の前に書かれた「星の林に。。。I」は、バリトンサクソとエレクトロニクスの為の作品で、両作品とも、万葉集からの同じ短歌が使われている。日本語、英語の両方のテキストを使うと同時に、音素、母音を音楽的に絡ませている。

On the sea of heaven,	天(あめ)の海に	
the waves of clouds rise,	雲の波立ち	
and I can see	月の船	
the moon ship disappearing	星の林に	
as it is rowed into the forest of stars	漕ぎ隠る見ゆ	(伊藤美由紀)

2. 武満徹(1930-1996):「森のなかで—ギターの為の3つの小品 (1995)」(ギターソロ)

- (1) ウェインスコット・ポンド ～コーネリア・フォスの絵画から～
- (2) ローズデール
- (3) ミュアー・ウッズ

各章に附されたタイトルは、北米の地名で、それぞれの場所に、美しい、大、小の森がある。ローズデールの森は、カナダ、トロントの閑静な住宅街をつつむように舗道に沿って走る灌木の茂みであり、初秋の陽光を浴びて美しい。ミュアー・ウッズは、サンフランシスコ郊外にあり、ミュアーという篤志家によって保護された巨大なセコイア樹が、天を突くようにそびえ、深い森をつくっている。そこでは人間の卑小さを思いしらされる。ウェインスコット・ポンドを、実は、私は未だ訪れたことがない。それがアメリカの何処にあるのかも知らない。友人から送られてきた絵葉書に印刷された美しい風景画の下に、小さな活字で、Wainscot Pond とあった。池の向こうに、私には、沈黙する森が見えた。ここではたんに森の情景を描写するのではなく、森のなかで、感じ、考えたこと、また行動を共にしたひとびとへの懐かしい思い出を描こうと思った。(鈴木大介/武満徹 ギター作品集 CD 解説文の武満自身のテキストより)

3. ストラヴィンスキー(1882～1971):「3つの日本の抒情詩 (1913)」(ソプラノ、ピアノ)

- (1) 山部赤人

吾兄子(せこ)に見せむと念ひし梅の花 私は、白い花をあなたにおみせしたかった。
それとも見えず雪のふれれば(万葉集1426号) でも、雪が降り、花とも雪とも知れません。

- (2) 源当純 (まさずみ)

谷風にとくる氷のひまごとに 春が来た、氷の隙間から、流れ出る波が川で歌う。
打ちいづる波や春の初花(古今集1. 12) 白い初花になりたいのだ 楽しい春の。

- (3) 紀貫之

桜花咲きにけらしなあしひきの 遠くあの白いものは何 山間のあちこちに雲がういているようだ。
山の峡(かひ)より見ゆる白雲 桜の花が咲き 待ちに待った春が来たのだ。

ストラヴィンスキーは、1912年にシェーンベルクの<ピエロ・リュネール>をベルリンで聴き、<ピエロ>と同じ楽器編成による新作を構想。テキストは、A. ブラント訳による日本の短歌を用いている。オリジナルは、ロシア語による室内楽との楽曲である。1曲<赤人>(万葉集)、2曲<当純>(古今集)、3曲<貫之>(古今集)の各々は、柔軟なリズムと自由な無調風な響きにより非西欧的な音のパースペクティブにより風景を描いている。今回は、ピアノ版で、ドイツ語歌詞による演奏です。(伊藤美由紀)

4. 猿谷紀郎:「虹のあしおと (1999)」(ヴァイオリン、ギター)

「輝きの奥にもっと輝くものがあるように、美しさの向こうに、更に美しい物があるような気がします。音の中に音楽があり、その深い所に、音そのものを感じさせてくれる何かがあるはず。耳に聴こえるという物ではなく、心に響くという事だけでもなく、もっと自分を越えた、はるかな所で何かが生れているような、例えば、幽かな虹のあしおとが、別の世界への架け橋となって、聖歩のように揺れている。そんな感覚を渡辺香津美さん、鈴木大介さんのお二人のギターは伝えてくれるのです。」これはこの作品が初演された際のノートです。新潟に新しくできた能楽堂で開かれた、作品武満を中心とした、追悼のためのコンサートでした。今回はこのギター2本の作品をギターとヴァイオリンでお聴き頂きます。どのように仕上がるか、私もとても楽しみにしております。(猿谷紀郎)

5. 大村久美子:「浄められた息 (2003/06)」(ソプラノ、ヴァイオリン、ギター)

人は誰もが生まれながらにその人独自の声を持っており、歌うということは、楽器の演奏に比べて体自体が共鳴体となるために、より直接的にその人自身の個性や、心の状態が表れるものである。この曲を作曲するにあたって、曲が進行するにつれて歌手の体内外をめぐる呼吸が徐々に浄化され、音楽全体もけがれのない清らかな世界に導かれる様子をイメージした。タイトルの“Blessed Breath”にちなみ、作曲者によって選ばれた bl, br を含む単語を中心に、前半では blue, blood, break などの陰鬱、暴力的、破壊的な言葉が散りばめられ、曲が進むにつれて、brilliant, bright, blessed のように明るく、輝かしく、祝福された言葉に変容していく。(大村久美子)

6. ネイト・ペーゲル(映像)/ 伊藤美由紀(エレクトロニクス):「東京メトロ (2005-06)」

サンフランシスコ在住、アメリカ人のメディア・アーティスト、ネイト・ペーゲルとのコラボレーション作品である。ペーゲルの地下鉄をフォーカスした、ロンドン「アンダーグラウンド」、パリ「メトロポリタン」に続くMassTransシリーズの第三作目「東京メトロ」である。2005年10月日本滞在中に、東京で撮影され、作曲家、伊藤美由紀も一緒に、東京メトロの音を録音した。ペーゲルは、この作品の中では、<シンボル><サイン><雑踏>に焦点をあてている。パブリックとプライベートについて、人ごみのなかで孤独であり、日常の毎日のありふれたなかでのユニークさを意識した作品である。音楽は、エレクトロアコースティック作品で、実際の録音された地下鉄の音のみを素材とし、コンピューターでプロセスし作られている。エレクトロニクス作品のなかでも、日本的な間(サイレンス)を意識して構成されている。2006年1月にサンフランシスコのアービス・アーティウムギャラリーでのネイト・ペーゲル個展で公開された。(伊藤美由紀)

7. 大村久美子:「雑踏の中で (2006)」(ギターソロ)

タイトルの「雑踏の中で」は、交通や人々の行き交う都会の様子や、大量の情報が流通する現代社会を想起させる。実際、この曲においては、さまざまな特徴的な音形が繰り返されつつ重なり合い、変容を遂げて行くが、それは具体的な雑踏の描写というよりむしろ、その中で生きている私達の心のありようを抽象的に表している。日常起こるさまざまな出来事に、私達の心はその都度反応し、時には惑わされ、また時には再び自分自身を取り戻す。混沌とした状況の中に何を見いだすかは、その人次第であり、また、この雑然とした曲の中に何を聴き出すかも、その人に委ねられている。(大村久美子)

8. 武満徹: 歌曲より (ソプラノ、ギター)

(1) うたうだけ (1958) (詩: 谷川俊太郎)

1958年、鎌倉で作曲。この歌と「燃える秋」のピアノ伴奏は、作曲者自身による。初演の詳細は不明だが、1960年2月25日、草月ミュージックいん2「ブルースの継承」で、水島早苗によって歌われた記録がある。詩人・谷川俊太郎は、武満が、結核の為に入院を繰り返していた1953年から、生涯を通じての親しい友人であった。シンコーペーションのリズム、ブルースメロディー、クロマティックハーモニーなどを使用したジャズっぽい作品である。

(2) 恋のかくれんぼ (1961) (詩: 谷川俊太郎)

松村梢風の3つの短編を素材に作られた映画「班女」(監督: 中村登、松竹、1961年)の為に書かれた作品である。ペギー葉山によって歌われた。わらべうたの「かくれんぼ」をパラフレーズしたおどけた作品である。

今回は、2作品とも鈴木大介さんアレンジのギター伴奏によるものです。

9. 後藤龍伸:「レクイエム - モノローグ (2006)」(ヴァイオリンソロ)

「ゆきゆきて神軍」の逝ける神軍、そして名古屋の自由人であった故・久保則男氏に捧ぐ。(後藤龍伸)

10. 伊藤美由紀:「暗闇の中の眼のキラメキ (2006)」(ソプラノ、ヴァイオリン、ギター)

この作品では、光のメタファーに基づき、作曲者によってテキストとしての言葉が選ばれている。言葉には、作曲者の理解する英語、フランス語、日本語が使用されている。今までの声楽作品のなかでは、特に日本語の音素、母音、ピッチアクセントに焦点をあて音色の探求をしてきたが、今回、英語、フランス語を取り入れ、特に英語では、特性であるストレスアクセントの共通する言葉を使用することで、音色だけではなくリズム的なジェスチャーを取り入れた。また、音楽的に次の言葉を自分で選ぶというプロセスはチャレンジングな試みであった。タイトルは、光のメタファーからの言葉のひとつである、フランス語からの訳である。1.How does light gives sight? (なぜ、ものが見えるのか?) 2.Why is light so fleeting? (なぜ、光は、はかないのか?) 3.What is light? (光とは?)----magic! (マジック!) 3部に構成されており、それぞれの語りかけに対する答えを、作曲家自身が、探しながら言葉、音楽を織りなす。ギターとヴァイオリンとのユニークな組み合わせによる音色の追求も、魅力的であった。(伊藤美由紀)

～ プロフィール ～

ABOUT THE PERFORMERS



天羽明恵 (ソプラノ) Akie AMOU (soprano)

東京出身。東京藝術大学卒業。二期会オペラ研修所、文化庁オペラ研修所修了。1993年度文化庁派遣芸術家在外研修員として、シュトゥットガルトに留学。1995年五島文化財団オペラ新人賞受賞、副賞として2年間ベルリンへ留学。同年、ライスペルク音楽祭でティールマン指揮（ナクソス島のアリアドネ）にツェルビネッタで出演、さらに、ソニア・ノルウェー女王記念第3回国際音楽コンクールに優勝し、一躍注目を集める。その後、ドイツを拠点としてジュネーヴ大劇場、ザクセン州立劇場（ゼンパーオーバー）、ベルリン・コーミッシェ・オーバーなど、ヨーロッパ各地の歌劇場や音楽祭に出演。2003年第14回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞を受賞。ソリストとしてもサヴァリッシュ、ロジェストヴェンスキー、小澤征爾、バレンボイム、デュトワ、コンロンなどの指揮で国内外のオーケストラと共演。超絶的なコロラトゥーラとリリックな声を併せ持ち、内外で高い評価を得ている我が国期待のソプラノ歌手である。



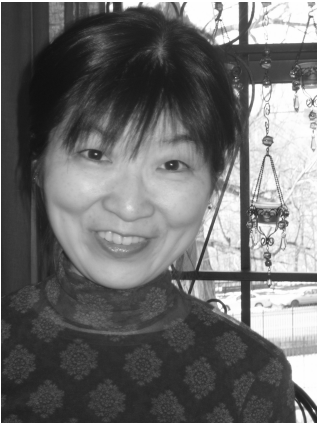
鈴木大介 (ギター) Daisuke SUZUKI (guitar)

作曲家の武満徹から「かつて聴いたことがないようなギタリスト」と評され、新しい世代の音楽家として注目されている。ギターを市村員章、福田進一、尾尻雅弘の各氏に、作曲を川上哲夫、中島良史の両氏に師事。1993年早稲田大学第一文学部卒業。バルセロナのマリア・カナルス国際音楽コンクール・ギター部門第3位（1992）、イタリア・アレクサンドリア市国際ギターコンクール「オマジオ・ア・アンドレス・セコビア」優勝（1993）。1994年より1年間文化庁派遣在外研修員としてザルツブルクのモーツァルテウムに留学。1997年「武満徹ギター作品集」をリリースし、ベストセラーとなる。2000年第10回出光音楽賞受賞。2004-05年、パリ・シャトレ座とベルリン国立歌劇場で、武満徹作品によるシアター・ピース「My Way Of Life」に参加。2005年にはアルバム「カタロニア讃歌～禁じられた遊び／鳥のうた」が芸術祭優秀賞を受賞。2002年よりNHK-FM「気ままにクラシック」のパーソナリティを務めている。2006年文部科学大臣新人賞を受賞。



後藤龍伸 (ヴァイオリン) Tatsunobu GOTO (violin)

1964年東京に生まれる。幼少時代をブラジルのサンパウロで過ごし、州立大学の特設講座にてヴァイオリン・和声・対位法を学んだ。1975年にサンパウロ市ベストアーティスト賞受賞。都立芸術高校を経て東京藝術大学入学。在学中に「ヴァンガード四重奏団」を結成、ヴァイオリン、ヴィオラ、編曲、作曲を担当。1993年にカーニバルカンパニー・カメレオンオーケストラ（C30）を橋爪恵一、山田武彦と共に結成、パスティーシュと即興の技巧を駆使した新しい様式を確立した。1987年よりCOBAのライブやレコーディングに参加。東京シティー・フィル、新星日響、九響、仙台フィルのコンサートマスターを経て、現在は名古屋フィルのコンサートマスター。日本作編曲家協会、三島由紀夫研究会会員。名古屋芸術大学特別客員教授・名古屋音楽大学特別講師。



伊藤美由紀 (作曲家)
Miyuki Ito (composer)

名古屋出身。愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程(ニューヨーク)、コロンビア大学博士課程(ニューヨーク)修了。芸術音楽博士。寺井尚之、ピエール・シャルベ、トリストタン・ミュライユ、フィリップ・ルローの各氏に師事。文化庁芸術家在外研修員として、IRCAM(フランス国立音響研究所)にて、電子音楽の研究を積む。神奈川県合唱曲作曲コンクール、アボット室内楽作曲コンクール、ボリス&エドナ・ラボポート賞、名古屋文化振興賞、日本交響楽振興財団作曲賞入選など、受賞。ミュージック・フロム・ジャパン(ニューヨーク)、東京オペラシテイ、ハーモニアオペラカンパニー(ニューヨーク)、武豊町輝きホール実行委員会などによる委嘱作品ほか、カーネギーホール(ニューヨーク)、レザナンスフェスティバル(パリ)、Centre Acanthes(フランス)、ISCM 世界音楽の日々2002香港(国際現代音楽協議会)、ICMC 国際コンピューター音楽会議フロリダ2004、スパークコンピューターミュージックフェスティバル(ミネソタ)2006をはじめ、世界各国の現代音楽祭で作品が演奏される。グラルドオーシタフェロシップとともに2005年カリフォルニア・ジェラシ・アーティストレジデンス。世界各国の教育機関でスペクトラルミュージックと自作について特別講演。現在、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学非常勤講師。「Fading Memories…」が、関澤真由美マリンバソロアルバムCD「My Favorite Things」(AUCD-13)に収録。



大村久美子(作曲家)
Kumiko Omura (composer)

東京芸術大学作曲科にて、浦田健次郎、松下功、近藤謙の各氏に師事。1994年に入野賞を受賞、受賞作「Reticulation」は、佐渡裕指揮の新日本フィルハーモニー定期演奏会にて初演される。また、同作品はウィーン・モダン・マスターズ審査員推薦曲にも選ばれる。翌年よりドイツ・エッセンのフォルクヴァング芸術大学にて、作曲をニコラウス・アフバー氏に、電子音楽をルドゥガー・ブルユンマーの各氏に師事。その間、オランダのガウデアムス作曲賞グランプリ(1998)、ドイツのハノーファー・ビエンナーレにおいて最高位(1999)、ドイツ・ノルドラインヴェストファーレン州若手芸術家奨励賞(2000)、ACL 入野義朗記念作曲賞(2000)を受賞。2000-1年には、パリの IRCAM (フランス国立音響研究所)にて電子音楽の研究を積む。作品は、ヴィッテン音楽祭(ドイツ)、アゴラフェスティバル、Centre Acanthes(フランス)、ブルーデント現代音楽祭(オーストリア)、Musiana1995(デンマーク)、ガウデアムス音楽週間(オランダ)、ICMC 国際コンピューター音楽会議2000(ベルリン)などの、ヨーロッパや日本の各地の音楽祭にて演奏されている。また、2004年に武生国際フェスティバルにて初演された「Luminous Spiral」が武生作曲賞を受賞した。西ドイツ放送局委嘱作「Synapse」がヴィッテン音楽祭ドキュメントCD、「イマージュの錯綜」が斎藤貴志サクソフォン作品集CD(ALM Record)、「Double Contour」が Computer Music Journal の DVD (MIT, アメリカ)に収録されている。個人サイト：
<http://www13.plala.or.jp/kumiom/>

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

~more

information~

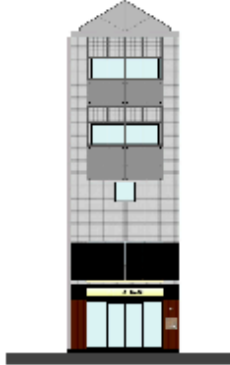
ストラヴィンスキー(1882~1971): ロシアの作曲家。20世紀を代表する作曲家の一人である。多彩な管弦楽法と強烈なリズムの原始主義的な作風から出発し、新古典主義、後には、12音技法を取り入れた作品まで、制作する。

武満徹(1930~1996): 東京出身。ストラヴィンスキーに絶賛され、国際的に知名度を得る。日本を代表する作曲家の一人。映画音楽でも活躍する。2006年は、没後10年となる。

猿谷紀郎(1960~): 東京出身。慶応義塾大学法学部卒業後、ニューヨークのジュリアード音楽院修士課程修了。タングルウッド音楽祭、アルスフェルド音楽祭、などの音楽祭に招待され、クセヴィツキ音楽財団・フェロシップ賞(88年)、ミュンヘン・ビエンナーレ・BMWミュージックシアター賞(92年)、第3回茶川作曲賞、第3回出光音楽賞を受賞、第43回尾高賞を受賞(95年)などを受賞。

ネイト・ペーゲル(1968~): サンフランシスコ在住のアメリカ人メディア・アーティスト。ライス大学(ヒューストン)、シドニー大学大学院卒業。アップルコンピューター会社で働いている間に、実験的なマルチメディア作品制作を始める。ビデオ、サウンド、グラフィック、ウェブ、バーチャルリアリティー、インターラクティブテクノロジーを使い、振付師、作曲家、ビデオアーティスト、デザイナーなど様々な分野のアーティスト達とコラボレーションを行っている。

＜協力スタッフ＞ 舞台：大村久美子、鈴木昭宏、山口泰幸 / 会場：奥村真千子、齋藤奈緒子



ミュージズクリエート (コンサート・マネージメント)

- ・私たちはあなたの演奏会に必要な諸々の業務を代行し、あなたの演奏会を最高のものにするために誠心誠意お手伝いさせていただきます。
- ・演奏者の立場に立って、正しいところに手が届くマネージメントを心掛けています。
- ・あなたは日々の練習に、また本番の演奏に集中してください。

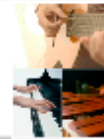
ミュージズ・サロン (3F)

- ・ミュージズサロンは50名まで収容できるサロンコンサート会場です。
- ・休日の楽しみやアンサンブルの練習からコンサートまでお気軽にご利用ください。
- ・毎月サロンコンサートやワンコイン講座など楽しい企画が満載です。



ミュージズ音楽教室 (2F)

- ・ギター(クラシック、アコースティック、フラメンコ、ボサ・ノヴァ)
- ・リュート(ルネサンス、バロック)
- ・ピアノ(クラシック、ポピュラー、ジャズ)
- ・マリンバ
- ・ボイストレーニング、ゴスペル
- ・フラメンコ舞踊



ミュージズ・ギター・ショップ (1F)

- ・クラシックギター専門店です。
- ・アットホームな雰囲気の中に輸入品から国産品まで、オーナーがこだわりを持って厳選したギターを揃えています。
- ・お気軽に試奏しにお越しください
- ・マリンバ、パイプ等の鍵盤打楽器や関連の楽譜・CDもお取扱しています。



ミュージズ・サロン・コンサート情報

- ・5月14日(日)にほんのうた 尺八・琴・チェロ・ギターで響る日本の調べ
- ・5月20日(土)岸田智廣&賀三 デュオ・コンサート 18:00開演
- ・6月10日(土)川瀬 寛 サロンコンサートシリーズNo.2
- ・6月17日(土)服部文厚 & 伊藤兼治ギターコンサート (はHPどうぞ！)
- ・6月18日(日)池田 浩フラメンコギターコンサート
- ・6月24日(土)下森佳津美(Pf)&竹内永和(Gt)デュオ・コンサート
- ・6月25日(日)フルート&ギター デュオ・コンサート
- ・7月1日(土)佐藤正美 ボサ・ノヴァギターの調べ (詳しく)

主催：NymphéArt (ニンフェアール)/(財)名古屋市文化振興事業団
 助成：(財)朝日新聞文化財団、サントリー音楽財団推薦コンサート
 協力：ミュージズ音楽館
 後援：名古屋芸術大学音楽学部